

科目名 (Subject name) 英会話Ⅱ	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 (Lecture person) エドワード・アーノルド (実務経験：英会話スクールにて日常会話 およびビジネス英語等の講師として従事)
時間数 (単位数) 5単位	学年・時期 2 学年	区分 必修 選択
〔授業の目的・ねらい〕 (Purpose or aim of class) This course gives you the English you need to talk to guest-from the moment they arrive at your hotel until the time they leave (ホテルに滞在中のお客様に対しての英会話を学習する)		
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 (Theme and content of class) ① Welcoming and checking-in guest (お客様の歓迎とチェックインについて) ② Looking after guest (お客様のお世話) ③ Reservation (予約について) ④ Guest problems (お問い合わせについて) ⑤ Restaurant (レストランでの会話) ⑥ Complaints (クレーム対応について) ⑦ Housekeeping (客室清掃) ⑧ Room service (ルームサービス) ⑨ Guest services (総合受付) ⑩ Bussiness center (会議室について) ⑪ Rocommedations (観光地とグルメのお勧めについて) ⑫ Checking-out (チェックアウト)		
〔使用テキスト・参考文献〕 (Text to use) Hotel & Hospitality English (ホテルとおもてなしの英会話)	〔単位認定の方法及び基準〕 (試験の評価基準など) (Evaluation criteria of test) Speaking test (口答試験) (40点~59点 C 評価、60点~79点 B 評価、80 点~100点 A 評価)	
〔関連科目〕		

科目名 中国語会話Ⅱ	授業の種類 (講義) 演習 実習	授業担当者 王 璠 (オウ ハン)
時間数(単位数) 5 単位	学年・時期 2 学年	区分 (必修) 選択
〔授業の目的・ねらい〕 中国語の基本をしっかりと身につけ、上級応用である日常会話と簡単な読み書きを目指します。具体的には中国語の文法、発音、語彙、漢字などを取り上げ、さらに中国語にまつわる慣用表現や文化習慣も詳しく紹介します。		
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 ① 中国語の基礎知識(他言語との違いなど) ② ピンインについて再発見 ③ 中国語の漢字 ④ 中国語の文法 ⑤ 中国語の慣用表現 ⑥ 中国語の基礎語彙 ⑦ 中国語の歴史と文化 ⑧ 日常会話 ⑨ 日常ニュース ⑩ 日中翻訳		
〔使用テキスト・参考文献〕 必ず話せる中国語入門 すぐ使える接客中国語入門	〔単位認定の方法及び基準〕 (試験の評価基準など) 定期試験(口答試験)により評価、40 点以上を合格とする。 (40点~59点 C 評価、60点~79点 B 評価、80点~100点 A 評価)	
〔関連科目〕		

科目名 韓国語会話Ⅱ	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 金 昞奎 (キム ビョンギョ) (実務経験：韓国語会話スクールにて日常会話等の講師および留学紹介等の業務に従事)
時間数 (単位数) 5 単位	学年・時期 2 学年	区分 必修 選択
〔授業の目的・ねらい〕 状況や目的に適した簡単な会話ができる。 職場で繰り返し使用される語彙や表現を聞いて理解することができる。		
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 ① (どこかに) 行く目的、場所の利用表現 ② 月、日、日程の表現 ③ 時間、敬語の表現 ④ 過去、順次の表現 ⑤ 職場で利用される語彙や表現 ⑥ 仮定文、条件文 ⑦ 未来、計画の表現 ⑧ 交通手段の利用、文書の連結 ⑨ 否定文、順次の表現 ⑩ 職場で使用される語彙や表現		
〔使用テキスト・参考文献〕 美しい韓国語 1-2	〔単位認定の方法及び基準〕 (試験の評価基準など) 定期試験 (口頭試験) により評価、40 点以上を合格とする。 (40 点～59 点 C 評価、60 点～79 点 B 評価、80 点～100 点 A 評価)	
〔関連科目〕 韓国語会話Ⅰ		

科目名 観光管理Ⅱ	授業の種類 (講義) 演習 実習	授業担当者 柴田 俊光
時間数(単位数) 3単位	学年・時期 2学年	区分 (必修) 選択
〔授業の目的・ねらい〕 国家試験である国内旅行業務取扱管理者に向けた学習を行う。 旅行業法において旅行業等に必要な法律を理解し、標準約款において旅行業等と旅行者に発生する義務権利について学ぶ。また、JR・航空等の実務理解や、国内観光資源理解により観光に携わる人材としての即戦力を身につける。また、学習したプラン作成や観光資源理解を応用し、海外研修旅行プラン作成を行う。 ・観光庁 国内旅行業務取扱管理者(9月)		
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 ①旅行業法及びこれに基づく命令 ②約款(標準旅行業約款) ③国内運賃料金 ④国内観光地理		
〔使用テキスト・参考文献〕 各担当教員が指定する	〔単位認定の方法及び基準〕 (試験の評価基準など) 定期試験により評価、40点以上を合格とする。 (40点～59点 C評価、60点～79点 B評価、80点～100点 A評価)	
〔関連科目〕 観光管理Ⅱ・観光演習Ⅰ・観光演習Ⅱ		

科目名 観光基礎Ⅱ	授業の種類 (講義) 演習 実習	授業担当者 土澤 満
時間数(単位数) 2単位	学年・時期 2学年	区分 (必修) 選択
〔授業の目的・ねらい〕 前半に北海道の観光を中心に、北海道を訪れる観光客に対し、その地域の観光知識のみならず北海道全体に関する幅広い知識を持って接することにより、北海道の観光振興への意識とホスピタリティの向上を図ることを目的とする。 後半には、国内の観光地理として、観光地、温泉を学ぶ。 最終目標は北海道観光マスター検定および国内旅行地理検定の合格。		
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 ① 北海道観光マスター 第1章 北海道観光マスターについて 第2章 北海道の基礎情報 第3章 北海道の観光地 第4章 北海道の歴史 第5章 北海道の祭り 第6章 北海道の自然 第7章 北海道の交通網と交通機関など ② 国内旅行地理検定 パート1 ジャンル別/必須300 1) 温泉 2) 山・高原・溪谷 3) 島・半島 4) 海岸・岬 5) 湖・川・滝・鍾乳洞 6) 寺社・城跡 7) 主な観光地 パート2 時刻表腕めぐり日本一周の旅 1) 北海道 2) 東北 3) 関東 4) 中部(伊豆・山梨を含む) 5) 関西 6) 中国・四国 7) 九州 8) 沖縄 パート3 プラスαへのスタート/地域別・県別観光資源 1) 北海道 2) 東北 3) 関東 4) 中部 5) 関西 6) 中国・四国 7) 九州・沖縄		
〔使用テキスト・参考文献〕 1 北海道観光ブック (北海道観光マスター検定公式テキスト 第6版) 2 すぐに役立つ国内旅行地理ベーシック300+α (JTB 総合研究所)	〔単位認定の方法及び基準〕 (試験の評価基準など) 定期試験により評価、40点以上を合格とする。 (40点~59点 C 評価、60点~79点 B 評価、80点~100点 A 評価)	
〔関連科目〕 観光演習Ⅱ		

科目名 観光演習Ⅱ	授業の種類 講義 (演習) 実習	授業担当者 土澤 満
時間数(単位数) 2単位	学年・時期 2学年	区分 (必修) 選択
〔授業の目的・ねらい〕 1年次の観光演習をもとに、全道・全国および海外に範囲を広げ、年2回のフィールドワークを計画・実施。1年次と同じく第一線で働く講師からのアドバイスをいただく		
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 ① 旅行計画 概要説明(企画の発展、作業の発展) ② グループワーク 1) 企画 (テーマの仮決定、行程作成、ツアーテーマの最終決定、各手配準備、料金確認) 2) プレゼンテーション内容の検討・準備 (プレゼンテーション内容の検討・再構成、パワーポイントの作成、企画発表準備、プレゼンテーション、資料作成) ③ 報告会 1) 報告会の指導(構想構造の検討、報告会の準備) 2) 報告会内容の案作成 3) 報告会内容のまとめ、最終チェック		
〔使用テキスト・参考文献〕 プリント・作成資料	〔単位認定の方法及び基準〕 (試験の評価基準など) 定期試験により評価、40点以上を合格とする。 (40点～59点 C 評価、60点～79点 B 評価、80点～100点 A 評価)	
〔関連科目〕 観光基礎Ⅱ		